

備前市施策評価シート

【平成30年度作成】

施策名 (小項目)	歴史文化の活用と伝統文化の継承	コード	02-03-10	作成者	役職 文化振興課長 氏名 田原 義大 電話 64-1841
		このシート作成に要した時間		2.0 時間	

この施策の アピール ポイント	本市には、日本を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に引き継ぐとともに広く活用していきます。
-----------------------	--

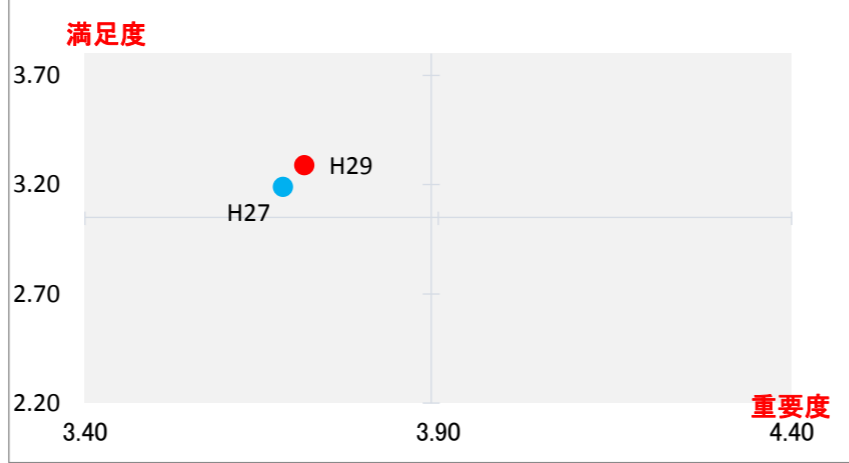
この施策の 平成29年度の 施政方針	<p>【生涯学習課】 市内の指定文化財について、「備前陶器窯跡」の追加指定を含め適切な保護管理を行う。その際適宜、文化財保護審議会、備前陶器窯跡整備委員会などを開催し、重要事項を調査審議する。また備前焼に関する情報発信「備前歴史フォーラム」を開催する。</p> <p>【埋蔵文化財管理センター】 市内に所在する遺跡の保護や埋蔵文化財を適切に管理し、活用するために開設した施設が、親しみやすい施設となるようワークショップや企画展を開催する。収蔵庫で適切に埋蔵文化財を保管するために平成26年度から引き続き国庫補助事業を活用し約1,700箱ある「不老山東口窯跡」の遺物再整理事業を行い、29年度は報告書を作成し、関連機関に配布する。</p> <p>【歴史民俗資料館】 郷土の歴史文化に関する資料の収集、調査、保存を行い、企画展等を開催することで、郷土の歴史文化の情報を市民に提供する。平成27年度から引き続き国庫補助金を活用し備前焼に関する有形民俗文化財の調査を行い、29年度に報告書を作成し、関連機関に配布する。</p> <p>【加子浦歴史文化館】 郷土の歴史文化に関する資料の収集、調査、保存を行い、企画展等を開催することで、郷土の歴史文化の情報を市民に提供する。</p>
--------------------------	--

＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	自己実現施策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画（中項目）	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域の人の手で保存継承します。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海産物、山々の自然など、豊かな歴史、文化、自然があり、現代の生活の中で脈々と息づいています。これらの地域文化資源を大切に守りながら後世につないでいくとともに、価値を十分に理解し、認定を受けた日本遺産を通じ、資源の魅力発信もしながらまちづくりに生かす必要があります。また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。芸術・文化については、ゆとりとうるおいの実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠です。市民が身近なところで、幼い頃からいつでも、気軽に音楽や演劇、美術にふれるなど、豊かな自然・風土を生かしながら芸術・文化に親しむことができる機会や場所づくりを進めていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化資源の保存・活用 情報発信体制の構築 伝統文化の保存 旧閑谷学校世界遺産登録推進 備前焼日本遺産活用推進 芸術・文化にふれる機会の提供 自主的な活動への支援 子どもの芸術・文化活動の推進 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H27	H29
重要度 (%)	3.68	3.71
満足度 (%)	3.19	3.29



《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等	重要度・満足度ともに上昇しています。市民意識調査では、備前焼や閑谷学校を生かし切れていないのではないかとご意見をいただいています。
---------------------	---

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

成果指標	施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H27	H28			H29	H32
文化施設の年間入館者数	目標	人	12,200	20,000	20,000	市で管理運営する歴史文化施設（歴史民俗資料館・加子浦歴史文化館・埋蔵文化センター・吉永美術館・備前焼ミュージアム）への入館者数	H32	20,000
	実績	人	11,190	14,589	18,221		H34	20,000
	達成率	%	91.7	72.9	91.1		—	—
	ベンチマーク							
参考指標① 閑谷学校のことを来訪者に説明できる市民の割合	目標	%	63.0	63.0	63.0	【市民意識調査】 (隔年実施)	H32	65
	実績	%	—	54.4	—		H34	67
	達成率	%	—	86.3	—		—	—
	ベンチマーク							
参考指標② 芸術・文化に接する機会があった市民の割合【市民意識調査】	目標	%	50.0	50.0	50.0	【市民意識調査】 (隔年実施)	H32	50
	実績	%	—	40.0	—		H34	52
	達成率	%	—	80.0	—		—	—
	ベンチマーク							
参考指標③ 子ども備前焼作品展及び文学賞への出品数	目標	人	1,700	1,700	1,700	子ども備前焼作品展出品数+市民文学賞出品数	H32	1,700
	実績	人	1,526	1,738	1,598		H34	1,700
	達成率	%	89.8	102.2	94.0		—	—
	ベンチマーク							

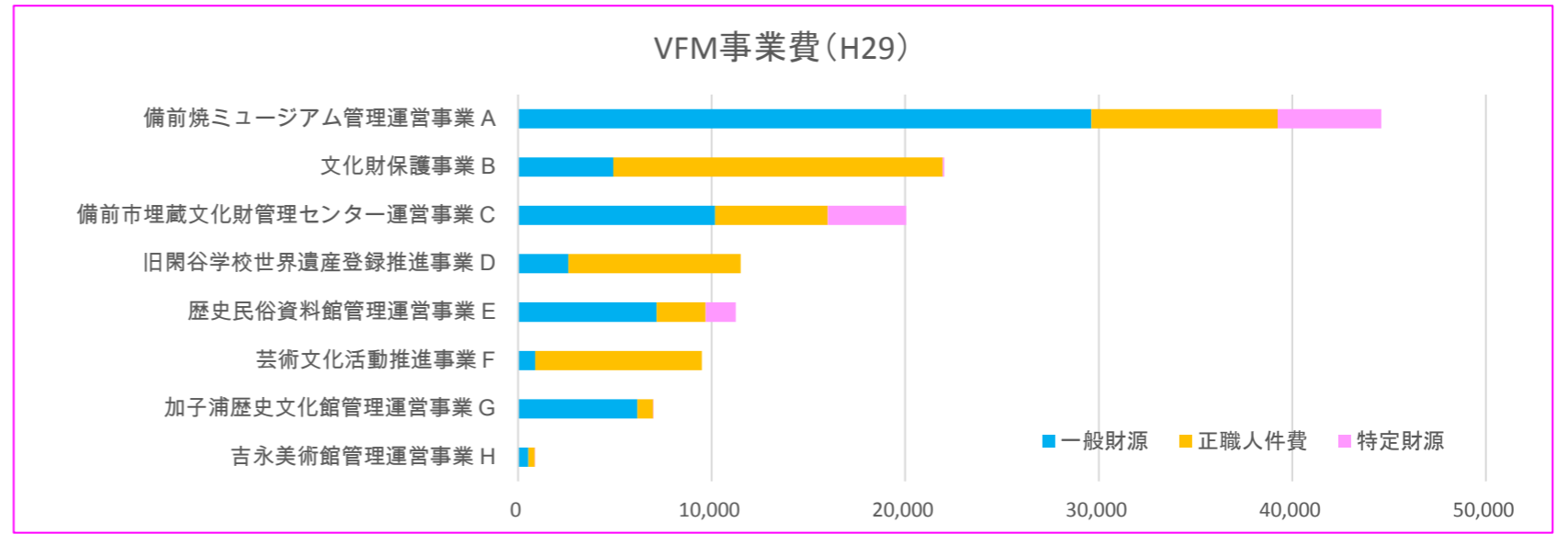
⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
中央公民館	図書館運営事業	各種文献とその地の歴史文化を紐解く上で図書館機能との連携は欠かせない。
学校教育課	小・中学校運営支援事業	郷土の文化財を活用した教育活動や文化活動に触れる機会の充実を図ることで、子どもの文化意識の向上に繋げる。
産業観光課	観光推進事業・備前焼振興事業	日本遺産（備前焼・旧閑谷学校）を生かした観光振興や備前焼の振興は、文化財活用の例である。

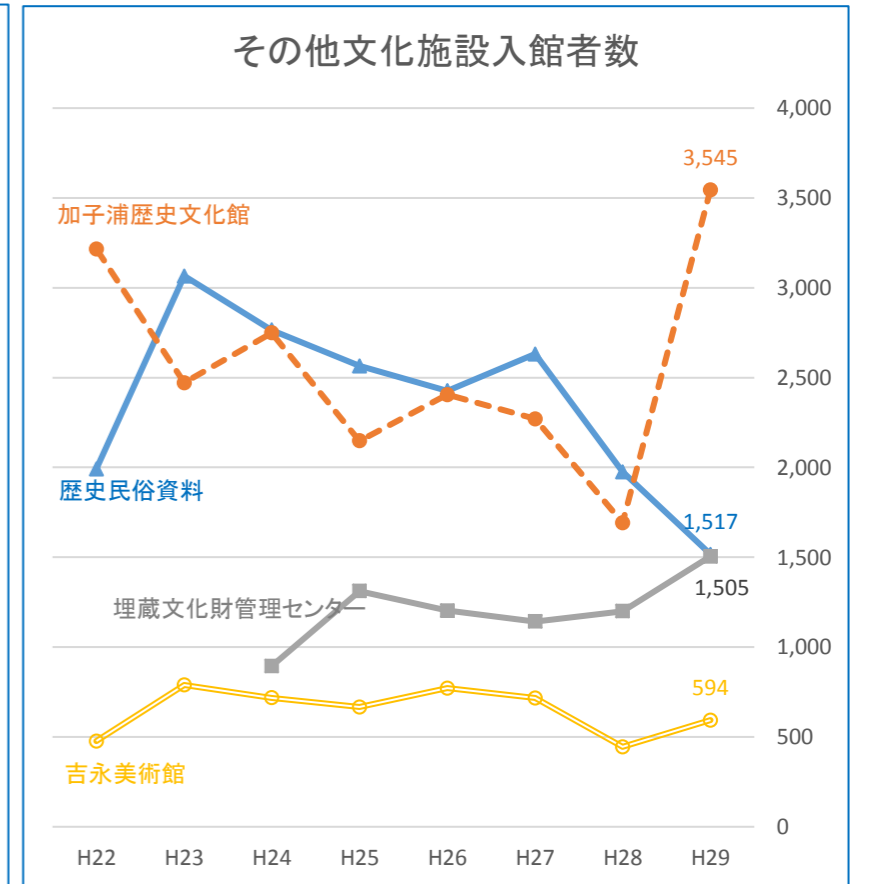
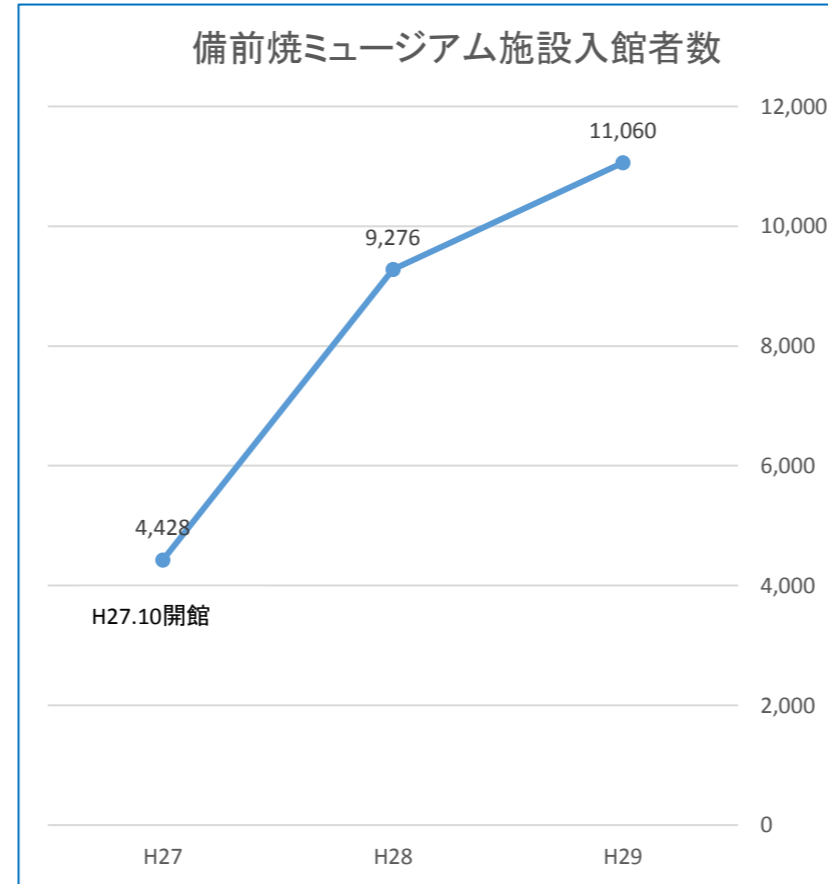
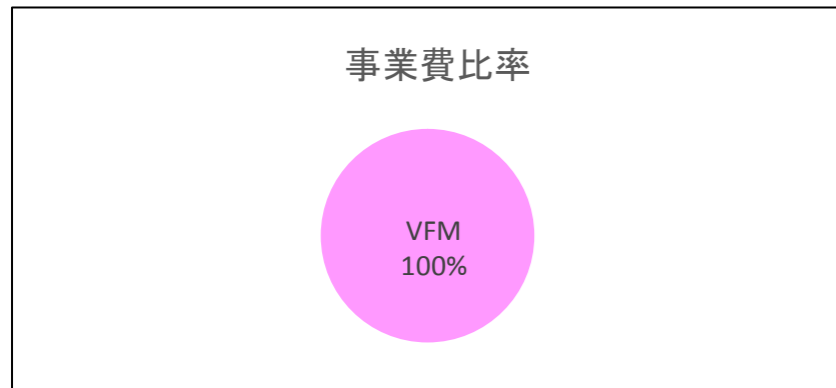
⑧ 施策の評価

項目	評価	5：非常に高い 4：高い 3：どちらともいえない 2：低い 1：非常に低い	
		判断理由（なぜ、そのランクと評価したのか）	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	3	「芸術文化に接する機会があった市民の割合」の方がより望ましい指標ですが、市民意識調査が隔年実施のため、入場者数を指標としています。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か？	3	地域文化資源の保存や伝統文化の保存という視点だけではなく、まちづくりを含めた活用と積極的な情報発信が必要です。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	文化施設が点在している状況にあります。施設の老朽化も進んでおり、機能統合を行うことなどにより集約を図っていく必要があります。	
進行年度(H30年度)の取組内容 (課題解決状況)	備前市歴史文化基本構想の改定作業については、文化財保護法の改正の状況を見ながら検討していきます。その中で文化資源の活用についても議論していく必要があります。		
翌年度(H31年度)の取組目標	年度ごとに備前陶器窯跡の公有化を予定しています。文化施設では趣向を凝らした企画展を実施して行く予定です。		
二次評価者コメント	心の豊かさの捉え方は市民一人一人で異なることから、文化振興関連施策は市民の意向を十分考慮して進めたい。また、文化財の活用は新たな課題であることから、関係部署と連携しながら取り組んでいきたい。		基本施策への 貢献度 4 やや高い
役職	教育部長		
氏名	川口 貴大		

施策評価シート(裏面)



事業費 1.3 億円
 特定財源 0.1 億円



A 備前焼ミュージアム管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

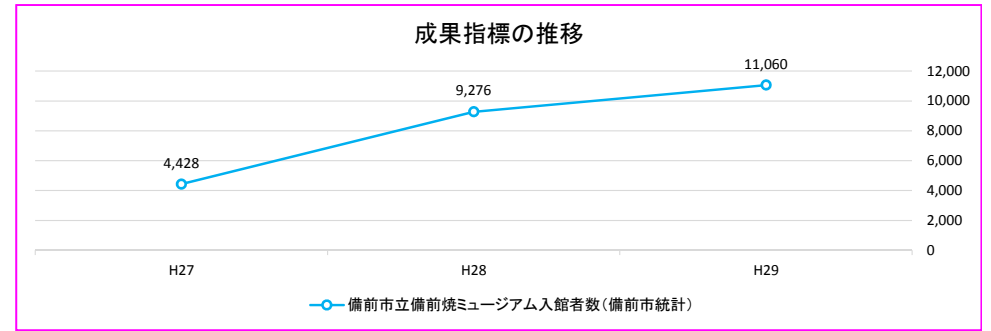
事業開始年次	平成27年度		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 安本恵美子
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

事業の成果	備前焼等に関する資料を収集、保管、調査研究及び展示することにより、備前焼に関する情報発信を行う。また、これら資料等を活用し、学習や体験の機会をつくり、備前焼の知識の向上を図る。
成果指標名A	備前市立備前焼ミュージアム入館者数(備前市統計)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

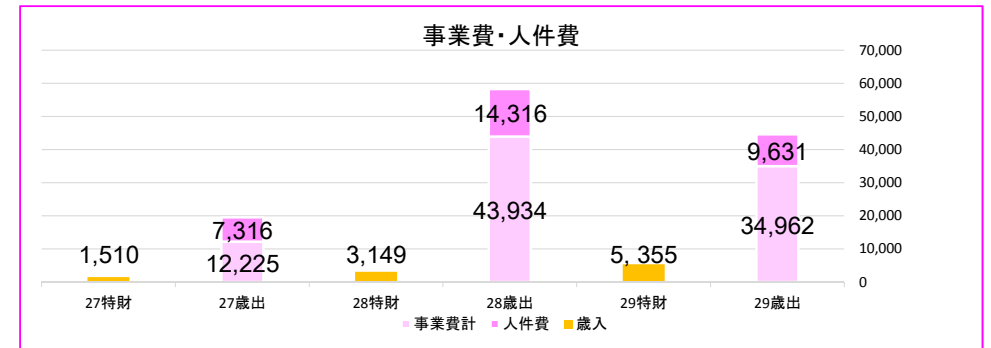
事業の説明	事業概要	企画展等を開催し、備前焼の伝承継承、産業・観光の振興を図るため、備前市立備前焼ミュージアムを運営する。 【今年度の重点項目】やきものの歴史の中で、各地に残る備前焼と類似したやきものと備前焼とのつながりを探り紹介する。備前焼の細工物について紹介する。 H29.4.25~5.21 春きらら ウィッチフォード・フラワーポットの世界(入館者:1,698人) H29.6.29~9.3 備前細工物のきのう・きょう・あした(入館者:2,338人) H29.10.13~11.5 美意識のかたち 心のかたち 金重陶陽の粋なわざ(入館者:1,108人) H29.10.5~11.26 備前再発見 遠くて近い、近くて遠い備前の仲間たちから見えてくるもの(入館者:2,334人) H30.1.11~3.11 加守田章二展 京都国立近代美術館所蔵品を中心に(入館者:1,689人)
	制度改正の状況	
	結果・実績	年間入館者数 H27 4,428人 H28 9,276人 H29 11,060人 (内企画展開催期間中) (H29 9,556人) 開館日数 H27 149日 H28 297日 H29 300日

経費の説明	【報酬】:1,912,500円(美術館館長等報酬)
	【共済費】:956,837円(社会保険料) 【賃金】:6,318,246円(臨時雇賃金)
	【報償費】:186,080円(講師謝礼、展示品借用謝礼、資料調査等謝礼)
	【旅費】:819,234円(費用弁償、普通旅費)
	【需用費】:5,780,426円(消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料)
	【役務費・委託料】:2,732,315円(通信運搬費、保険料、施設警備・管理・保守委託料)
	【耐震診断調査】:2,646,000円
	【企画展】:11,606,994円(企画展委託料、広告料)
	【使用料及び賃借料】:1,287,370円(有料道路通行料、サインージ借上料、著作権使用料)
	【備品購入費】:679,936円(庁用備品) 【公課費】:8,200円(自動車重量税)
【負担金補助及び交付金】:7,000円(県博物館協議会負担金) 【事業費合計】34,962,109円	

歳入の説明	受益者負担:3,862千円(入館料、行政財産使用料)
	その他:1,493千円(寄附金、コピー代、ロッカー使用料、書籍・冊子売払収入)



有効性分析	入館者数が増加することにより、備前焼に関する学習や体験の機会をつくり、備前焼の知識の向上を図っていると考えられる。
-------	---



効率性分析(費用対効果)	昨年度より来館者数が増加しているが、依然低迷している状況は変わらない。施設も老朽化しており費用は増加することが予想される。事務改善等によりコストを下げる余地がある。
--------------	--

妥当性の判断	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果を挙げていると考えられるため、現行制度を継続する。
--------	--

今年度の重点取組	大型の企画展を含めて職員間で連携を取りながら、的確に一つ一つの事業を行っていく。
----------	--

次年度の方角性	企画展やワークショップの充実を図り、来館者を増やしていきたい。
---------	---------------------------------

B 文化財保護事業 事務事業評価シート【VFM】

事業開始年次	平成7年～		事業の終期		
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 安本恵美子
	施策	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

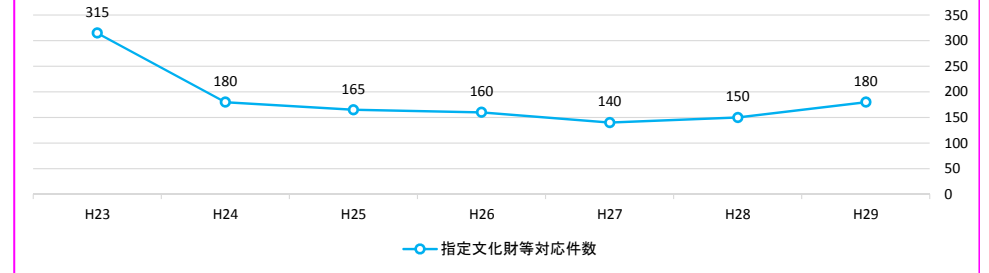
事業の成果	地域の文化財や文化について多くの人に情報提供することで、郷土の文化財の保護や活用について興味や理解を促し、貴重な文化財を後世に引き継ぐという認識を深める。
成果指標名A	指定文化財等対応件数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

事業の説明	事業概要	市内の指定文化財について、公有化を含め適切な保護管理を行う。 その際適宜、文化財保護審議会、備前陶器窯跡整備委員会などを開催し、重要事項を調査審議する。また備前焼に関する情報発信「備前歴史フォーラム」を開催する。 【今年度の重点項目】史跡備前陶器窯跡の追加指定に向けて申請手続きを進める。
	制度改正の状況	
	結果・実績	指定文化財等対応件数 H27 140件 H28 150件 H29 180件

経費の説明	【報酬】：194,000円（文化財保護審議会委員報酬、歴史文化基本構想策定委員報酬、史跡備前陶器窯跡整備委員会委員報酬） 【報償費】：33,000円（文化財調査等謝礼） 【旅費】：375,598円（費用弁償、普通旅費） 【需用費】：387,706円（消耗品費、印刷製本費） 【役員費】：10,000円（通信運搬費） 【委託料】：1,230,600円（文化財保護管理委託料、備前歴史フォーラム委託料） 【負担金補助及び交付金】：2,740,000円（指定文化財補助金、負担金等） 【事業費合計】4,986,891円
-------	--

歳入の説明	国県支出金：14千円（説明：移譲事務交付金） その他：48千円（説明：書籍・冊子販売収入）
-------	--

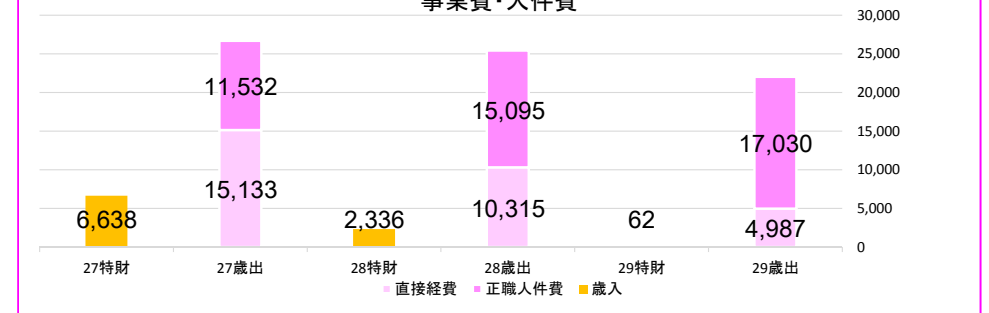
成果指標の推移



有効性分析

問合せ件数が増加していることにより、郷土の文化財の保護や活用について興味や理解を促し、貴重な文化財を後世に引き継ぐという認識を深めるといふ成果が上がっていると考えられる。

事業費・人件費



効率性分析
(費用対効果)

昨年度よりは、問合せ件数が増加し、文化財に対する情報提供ができた。

妥当性の判断

成果が上がっており、現行制度で続けることが望ましい。

今年度の重点取組

史跡備前陶器窯跡の公有化を進める。
備前陶器窯跡の一体的な遺跡の整備・活用を進めていくために史跡保存活用計画の策定作業を進める。

次年度の方角性

引き続き、史跡備前陶器窯跡の公有化及び備前陶器窯跡の一体的な遺跡の整備・活用を進めていくために史跡保存活用計画の策定作業を進める。

C 埋蔵文化財管理センター運営事業 事務事業評価シート【VFM】

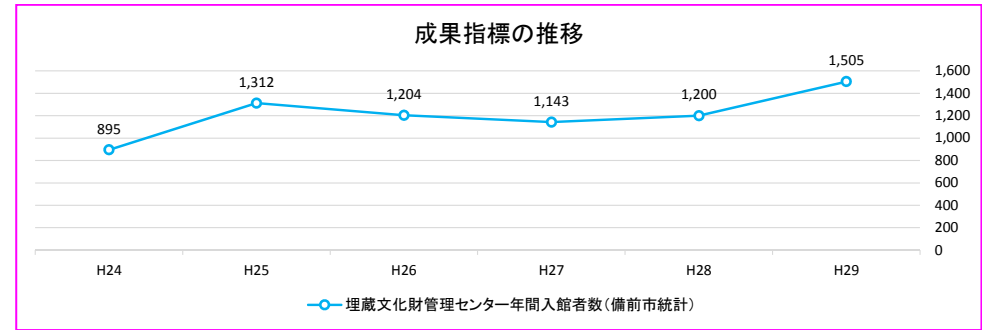
事業開始年次	平成25年		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 安本恵美子
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

事業の成果	地域遺跡に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できるセンターにしたい。
成果指標名A	埋蔵文化財管理センター年間入館者数（備前市統計）
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

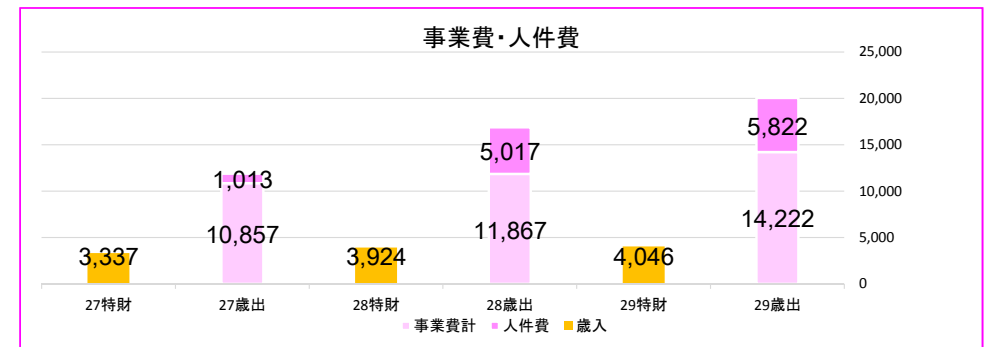
事業の説明	事業概要	市内に所在する遺跡の保護や埋蔵文化財を適切に管理し、活用するために平成23年度に運用を開始した施設である備前市埋蔵文化財管理センターが、親しみやすい施設となるようワークショップや企画展を開催する。 【今年度の重点項目】 収蔵庫で適切に埋蔵文化財を保管するために平成26年度から引き続き国庫補助事業を活用し約1,700箱ある不老山東口窯跡」の遺物再整理事業を行い、報告書を作成し、関連機関に配布する。 H29.7.5～8.20 企画展「医王山東麓窯跡群の全貌！」			
	制度改正の状況				
	結果・実績	年間入館者数	H27 1,143人	H28 1,200人	H29 1,505人
		開館日数	H27 299日	H28 293日	H30 297日

経費の説明	【報酬】：1,984,000円（調査員等報酬）
	【共済費】：278,061円（社会保険料） 【賃金】：5,914,966円（臨時雇賃金、作業員賃金）
	【報償費】：68,000円（講師謝礼） 【旅費】：537,340円（普通旅費）
	【需用費】：2,136,709円（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費）
	【役務費】：226,960円（通信運搬費、保険料）
	【委託料】：947,315円（施設警備・管理・保守委託料、情報発信事業委託料、ワークショップ鏡鋳型作成委託料）
	【原材料費】：74,098円（維持補修等原材料費）
【使用料及び賃借料】：56,980円（有料道路通行料）	
【工事請負費】：1,998,000円（施設整備工事）	
	【事業費合計】14,222,429円

歳入の説明	国庫補助金：3,908千円（史跡・埋蔵文化財公開活用事業2,000千円の50%、埋蔵文化財調査事業5,816千円の50%） 受益者負担：107千円（行政財産使用料） その他：31千円（書籍冊子売払収入、コピー代）
-------	--



有効性分析	入館者数が増加することにより、郷土の歴史文化に関する知識及び教養の向上を図っていると考えられる。企画展やワークショップを開催することにより入館者数は増えている。
-------	--



効率性分析(費用対効果)	昨年度より来館者数が増加している。施設も老朽化しており費用は増加することが予想される。
--------------	---

妥当性の判断	成果が上がっており、現行制度で続けることが望ましい。
--------	----------------------------

今年度の重点取組	国庫補助事業を活用し、熊山を中心に遺跡の調査を行う。
----------	----------------------------

次年度の方向性	企画展やワークショップの充実を図り、来館者を増やしていきたい。
---------	---------------------------------

D 旧閑谷学校世界遺産登録推進事業 事務事業評価シート【VFM】

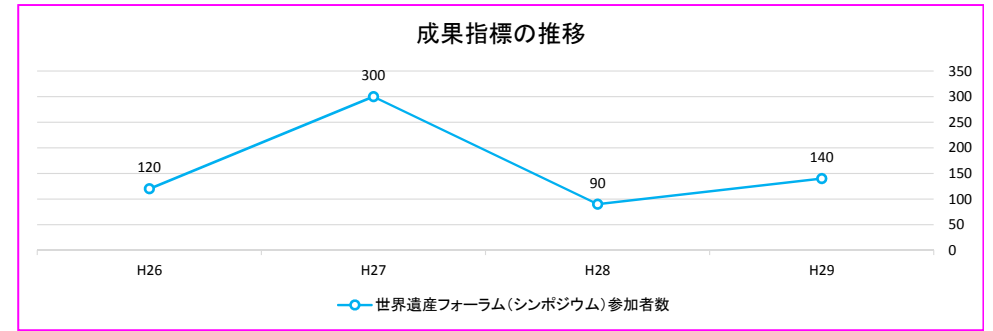
事業開始年次	平成14年度から		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 安本恵美子
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

事業の成果	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。
成果指標名A	世界遺産フォーラム(シンポジウム)参加者数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

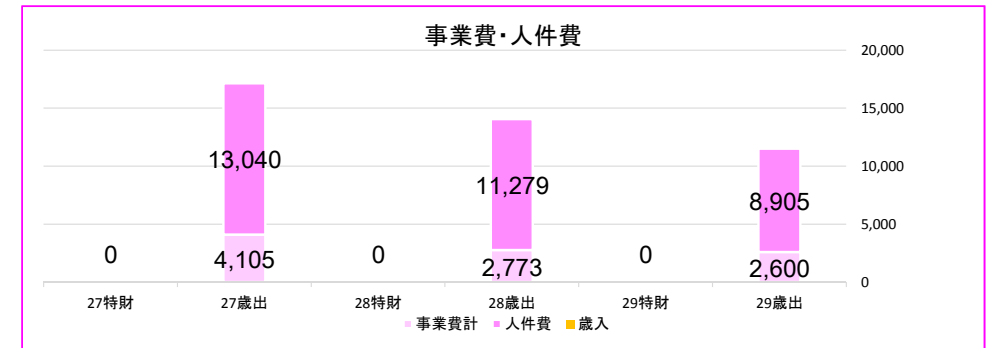
事業の説明	事業概要	近世の教育資産として世界遺産登録を目指し、一層戦略的に推進するため、教育遺産世界遺産登録推進協議会で専門委員による研究を深めるとともに関係機関との連携を図る。 また、旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会により講演会等を開催する。
	制度改正の状況	
	結果・実績	世界遺産フォーラム(シンポジウム)参加者H27 300件 H28 90件 H29 140件 署名数 H29 7,000件

経費の説明	【賃金】：13,100円(運転員賃金) 【旅費】：1,035,700円(普通旅費) 【需用費】：326,714円(消耗品費、印刷製本費) 【使用料及び賃借料】：74,762円(有料道路通行料、駐車料、施設使用料) 【負担金補助及び交付金】：1,150,000円(旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会補助金、教育遺産世界遺産登録推進協議会負担金) 【事業費合計】2,600,276円

歳入の説明	
-------	--



有効性分析	・対象者に対して事業の周知が不十分であるので、積極的にHP、SNSや広報等で情報発信していく必要がある。
-------	--



効率性分析(費用対効果)	コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい。
--------------	---------------------------

妥当性の判断	成果が上がっており、現行制度で続けることが望ましい。
--------	----------------------------

今年度の重点取組	世界遺産登録推進のため日本遺産の事業により地域活性化へつなげていく。 また、教育遺産世界遺産登録推進協議会より文化庁へ検討状況報告書提出に向けて作業を進め、世界遺産登録の暫定リストへの追加補充等の要望活動を行う。
----------	---

次年度の方向性	教育遺産世界遺産登録推進協議会より文化庁へ検討状況報告書を提出し、世界遺産登録の暫定リストへの追加補充等の要望活動を行う。
---------	---

E 歴史民俗資料館管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

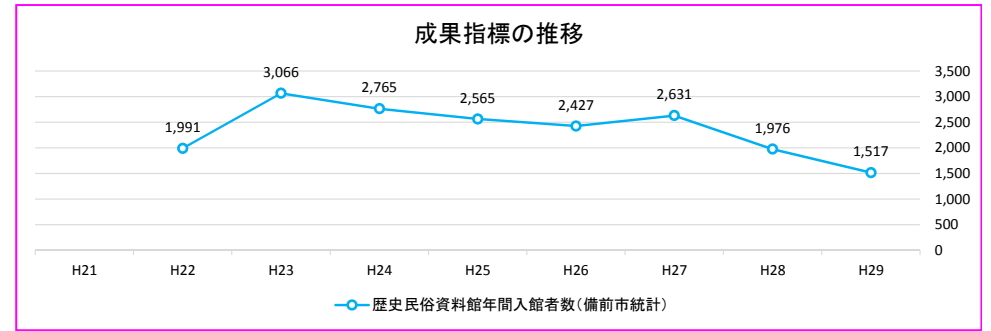
事業開始年次	平成3年		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 安本恵美子
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

事業の成果	地域に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。
成果指標名A	歴史民俗資料館年間入館者数(備前市統計)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

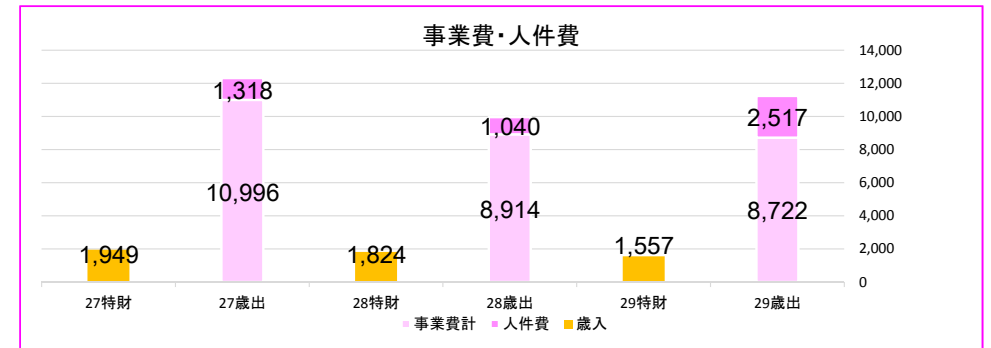
事業の説明	事業概要	郷土の歴史文化に関する資料の収集、調査、保存を行い、企画展等を開催することで、郷土の歴史文化の情報を市民に提供する。 【今年度の重点項目】国庫補助金を活用し備前焼に関する有形民俗文化財の調査を行い、29年度に報告書を作成し、関連機関に配布する。 企画展「ドコニ生えるか？備前ノ植物」H29.7.15~9.10 企画展「医王山東麓窯跡群の全貌！」J30.1.18~3.15 企画展「柴田鍊三郎生誕100年記念 -シバレンの愛した故郷-鶴海」J29.9.20~10.18			
	制度改正の状況				
	結果・実績	年間入館者数	H27 2,631人	H28 1,976人	H29 1,517人
		開館日数	H27 293日	H28 292日	H29 293日

経費の説明	【報酬】：192,000円(歴史資料調査員報酬)
	【共済費】：383,990円(社会保険料) 【賃金】：4,818,909円(臨時雇賃金)
	【報償費】：186,120円(展示品借用謝礼、資料調査等謝礼) 【旅費】：10,260円(費用弁償、普通旅費)
	【需用費】：2,309,918円(消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料)
	【役務費】：238,360円(通信運搬費、保険料、その他手数料)
	【委託料】：537,980円(施設警備・管理・保守委託料、H P保守管理委託料)
	【原材料費】：18,271円(維持補修等原材料費)
	【使用料及び賃借料】：1,287,370円(有料道路通行料、備品借上料、著作権使用料)
	【公課費】：18,900円(自動車重量税)
	【負担金補助及び交付金】：7,000円(県博物館協議会負担金) 【事業費合計】8,721,708円

歳入の説明	国庫補助金：1,475千円(備前焼の諸道具調査事業費の50%)
	その他：82千円(書籍・冊子等売払収入、コピー代)



有効性分析	入館者数が増加することにより、郷土の歴史文化に関する知識及び教養の向上を図っていると考えられる。常設展の内容の変更がないことや、企画展数が減少したため入館者数は低迷している。
-------	---



効率性分析(費用対効果)	昨年度より来館者数が減少し、依然低迷している状況は変わらない。施設も老朽化しており費用は増加することが予想される。
--------------	---

妥当性の判断	成果が下がっており、制度改正や廃止を検討する必要がある
--------	-----------------------------

今年度の重点取組	館蔵品の整理
次年度の方角性	企画展やワークショップの充実を図り、来館者を増やしていきたい。

F 芸術文化活動推進事業 事務事業評価シート【VFM】

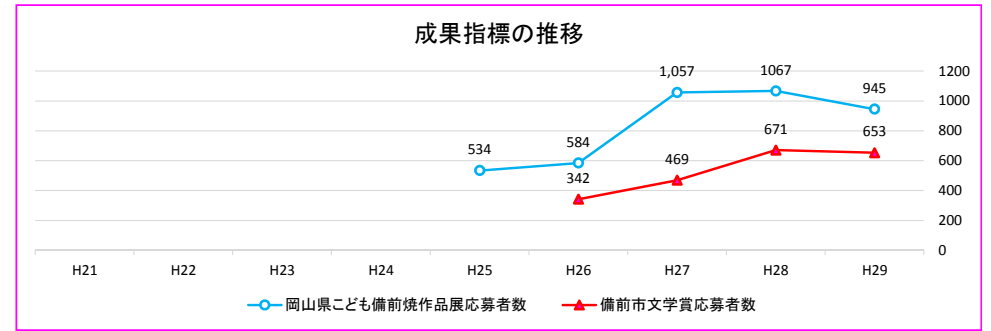
事業開始年次	平成4年～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	主査 宮本幸喜
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1837

事業の成果	こどもから大人まで豊かな感性や創造性を養い、活力ある市民生活と地域文化の発展に貢献する。
成果指標名A	岡山県こども備前焼作品展応募者数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	備前市文学賞応募者数
成果に関する他の要因	

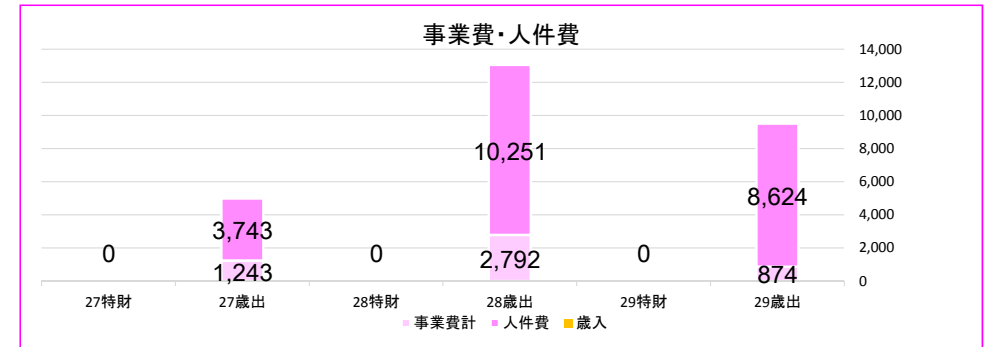
事業の説明	事業概要	【岡山県こども備前焼作品展事業】文化芸術の創造の場を提供し、活動を通じて地域の文化交流を図るとともに、備前焼を中心とした子どもの文化活動への創作参加を促進し、次世代への文化伝承を行う。 【備前吹奏楽フェスティバル】音楽活動を通して、小学生・中学生・高校生・社会人などの交流を促進し、グループ活動の成果発表の機会を設ける。 【市民文学賞事業】市民の文学創作活動を奨励し豊かな地域文化の振興を図る			
	制度改正の状況				
	結果・実績	岡山県こども備前焼作品展応募者数	H27 1,057人	H28 1,067人	H29 945人
		備前市文学賞応募者数：	H27 469人	H28 671人	H29 653人
		吹奏楽フェスティバル出演者数：	H27 192人	H28 135人	H29 110人

経費の説明	【賃金】：13,100円（運転員賃金） 【委託料】：389,000円（こども備前焼作品展運営委託料、吹奏楽フェスティバル運営委託料） 【負担金補助及び交付金】：472,212円（市民文学賞実行委員会助成金）
	【事業費合計】874,312円

歳入の説明	
-------	--



有効性分析	地域の中で芸術文化に親しむ機会を提供することで心豊かな市民生活及び活力ある地域社会の実現に寄与しているものと考えられる。
-------	--



効率性分析 (費用対効果)	・各事業とも昨年度に比べ参加者が若干減少している。効率的な広報活動等が必要であると考えられる。
---------------	---

妥当性の判断	・投入した費用に対して十分な成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	--

今年度の重点取組	・芸術、文化に親しむことのできる機会や場所づくり
----------	--------------------------

次年度の方角性	各事業とも継続して実施する。行事自体の魅力を増すように努めると共に市民に広く周知することで文化振興を促進する。
---------	---

G 加子浦歴史文化館管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

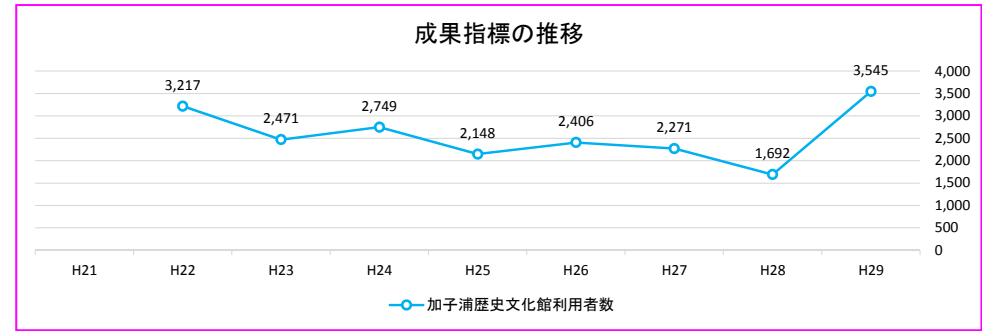
事業開始年次	平成9年		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	井上靖子
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-64-1846

事業の成果	当館の入館者のうち、市内の入館者は少なくほとんどが観光客である。観光客数は景気により左右されるので、当館が発足した際の「温故知新」をテーマに、日本文化を発信するスポットとしての役割を果たしたい。
成果指標名A	加子浦歴史文化館利用者数（備前市統計）
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

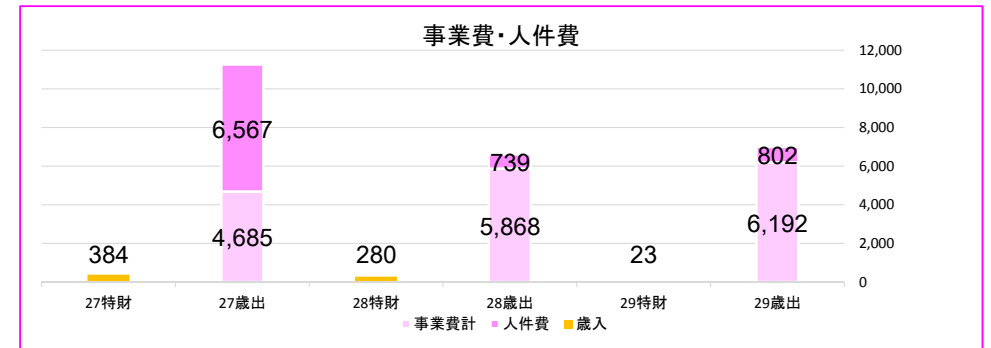
事業の説明	事業概要	【加子浦歴史文化館管理運営事業】企画展「を開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介 企画展に関連したワークショップの開催 郷土の歴史文化に関する資料の収集、調査、保存 貸しギャラリー 企画展「日生の漁業 おいしい牡蠣のできるまで-養殖から食べ方まで-」H30.1.31～3.26 企画展「医王山東麓窯跡群の全貌！」29.9.13～11.27 企画展「柴田鍊三郎生誕100年記念 -シバレンの愛した故郷・鶴海-」29.8.9～9.11			
	制度改正の状況	H29.4から入館料無料			
	結果・実績	年間入館者数	H27 2,271名	H28 1,692名	H29 3,545名
		開館日数	H27 299日	H28 299日	H29 298日

【共済費】：365,955円（社会保険料）	
【賃金】：3,869,829円（臨時雇賃金）	
【報償費】：29,000円（講師謝礼）	
【旅費】：16,040円（普通旅費）	
【需用費】：1,129,506円（消耗品費、印刷製本費、光熱水費、修繕料）	
【役務費】：205,968円（通信運搬費、保険料）	
【委託料】：550,711円（施設警備・管理・保守委託料）	
【備品購入費】：18,014円（施設備品）	
【負担金補助及び交付金】：7,000円（県博物館協議会負担金）	【事業費合計】6,192,023円

歳入の説明	加子浦歴史文化館使用料：4千円 その他：19千円（雑入）
-------	---------------------------------



有効性分析	入館者数が増加することにより、郷土の歴史文化に関する知識及び教養の向上を図っていると考えられる。入館料の無料化と企画展・ワークショップの開催によって、入館者数は増加している。
-------	---



効率性分析（費用対効果）	昨年度より来館者数が増加している。 施設が老朽化しており費用は増加することが予想される。
--------------	---

妥当性の判断	成果が上がっており、現行制度で続けることが望ましい。
--------	----------------------------

今年度の重点取組	文化講座、企画展の充実。
次年度の方向性	企画展やワークショップの充実を図り、来館者を増やしていきたい。

H 吉永美術館管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

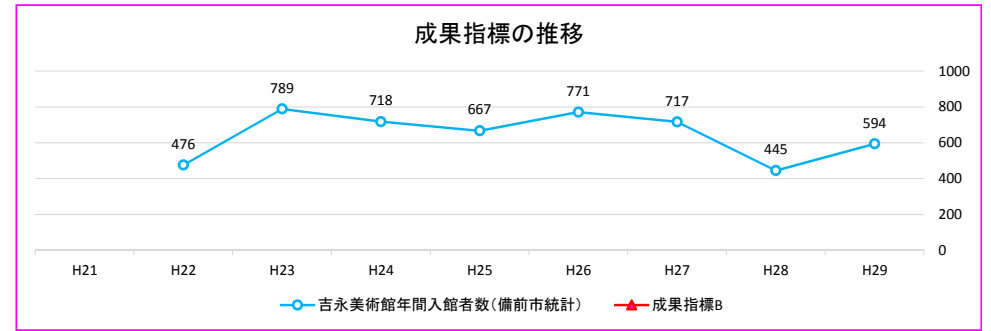
事業開始年次	平成17年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	文化振興課(社会教育課)
	基本計画	03 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名	館長 浅野隆之
	施策	10 歴史文化の活用と伝統文化の継承	電話	0869-84-3839

事業の成果	郷土の歴史や文化、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与する。
成果指標名A	吉永美術館年間入館者数(備前市統計)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

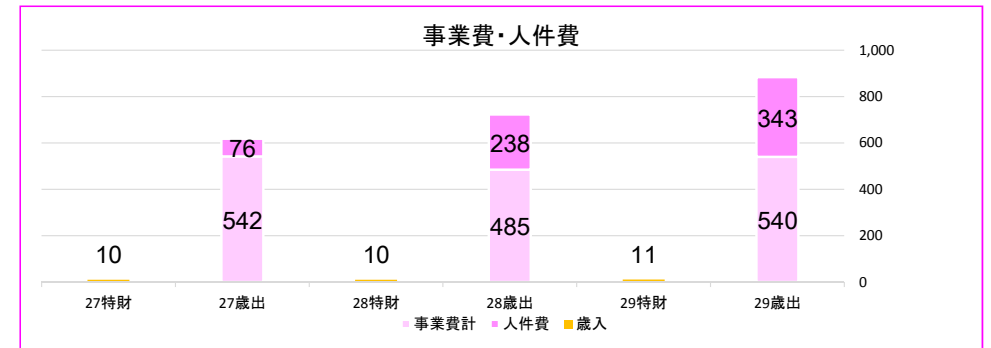
事業の説明	事業概要	【吉永美術館管理運営事業】施設の運営・維持管理・貸館業務 春・夏・秋・冬の所蔵品展 貸しギャラリー
	制度改正の状況	春・夏・秋・冬の所蔵品展は、無料にしている。
	結果・実績	吉永美術館入館者数： H27 717人 H28 445人 H29 594人 吉永美術館開館日数： H27 166日 H28 156日 H29 188日

経費の説明	【需用費】：516,206円(消耗品費、光熱水費) 【役務費】：2,080円(保険料) 【委託料】：21,600円(施設保守点検委託料)	【事業費合計】 539,886円

歳入の説明	美術館使用料：11千円(貸しギャラリー：MOA児童作品展)	
		【歳入合計】 11,470円



有効性分析	入館者数が増加することにより、郷土の歴史や文化、美術に関する知識及び教養の向上を図っていると考えられる。 展示物が大きく変わらないため入館者数は低迷している。
-------	--



効率性分析(費用対効果)	昨年度よりは、少し来館者数が増加したが以前低迷している状況は変わらない。 施設も老朽化しており費用は増加することが予想される。
--------------	--

妥当性の判断	・成果指標が下がっているため、施設の廃止及び統合を検討していく。 ・これ以上の成果を求めることは困難であるため、事業の廃止を検討する。
--------	--

今年度の重点取組	市民の方々へ幅広く貸しギャラリーとしての利用を促進して、入館者数の増加を図る。
----------	---

次年度の方角性	春・夏・秋・冬の所蔵品展の充実を図るとともに、文化財係との連携を図り、来館者を増やしていきたい。 市民の方々へ幅広く貸しギャラリーとしての利用も促進していく。
---------	--